

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200780
法人名	社会福祉法人 寿山会
事業所名	グループホーム パラディ
所在地	今治市波方町樋口甲120番地1
自己評価作成日	平成28年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念を大切に、利用者本位のサービスを提供できるよう取り組んでいます。</p> <p>○医療と連携をとり、安全で安心して生活できるようにしています。</p> <p>○地域の中で、地域密着型サービス事業所として地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。</p> <p>○ご利用者・地域・医療・職員の絆を大切にして、ご利用者の生活の質の向上に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな山間に位置し開設して12年が経過した事業所は、母体病院との連携が充実しており安全に安心して生活することができている。利用者との関わりを深く持ち、できることを根気強く引出すことで、利用者の元気のもとになっている。職員は長期勤務者が多く、始めようと決めたことは一丸となって臨み、新しいことに積極的にチャレンジして達成している。また感謝の気持ちを常に持ち、職員同士がお互いに「ありがとう」の意志表示をするサンクスカードにより感謝の意を表すことにより、職員同士の関係性が深まり、楽しく仕事ができやりに通じている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 花ユニット

記入者(管理者)

氏名

笠原 好美

評価完了日

平成28年 6月 7日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念はもとより、事業所の理念「ひとり一人がその人らしく尊厳のある暮らし」を掲げ、職員が理念を共有できるよう4つの行動指針を作り実践している。又、社会福祉法人の職員として出来る社会貢献にも取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念と当事業所の理念に沿って行動指針を作成し、目立つ所に掲示している。理念は最終的な目標と位置づけ継続し、具体的な行動指針について職員間で話し合い、項目を追加するなど見直しを行い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方とは、野菜を頂いたり、その野菜で作ったお漬物をお返しする等の日常的な交流ができています。又、そうめん流しや納涼祭、芋炊き会には近隣の方をお招きしている。6月に開催するあじさい祭りには、地域のサロンや地域の方達と共に作った「多々良マップ」をもとに案内状を作り招待している。</p> <p>(外部評価) 地域の独居高齢者が野菜を作り差し入れてくれたり、職員はその野菜で漬物を作りお返しする際安否確認を行うなど交流がある。事業所で開催するあじさい祭りやそうめん流しに地域住民の参加を呼びかけ、地方祭は獅子舞が入り利用者と一緒に見物している。産業文化祭には利用者の手作り作品を展示してもらいバザーに参加している。また地域清掃に参加するなど地域住民と積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の中学校の体験学習の受け入れを行っている他、6月のあじさい祭りには、在宅支援センター職員と共に、認知症家族の会の方々が来られ相談を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常の利用者の様子を理解して頂きたく、開催を14時からにしてみた。思っていたよりも利用者に出来る事が多いことが少し理解して頂けたが、仕事や農作業の都合で毎日が難しく、1年に1回のみ14時開催になった。メディアで高齢者の虐待等が報じられた時は、「虐待等にならない為には人材育成が重要」と意見を頂いた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、老人会、自治会長、寺の総代、市健康福祉課職員、家族の参加を得て開催している。利用状況、行事報告、事故報告などを行い、それらに基づいて話し合っているが、参加者が固定化され積極的な意見交換までには至っていない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当職員が運営推進会議に出席している。又、認定更新の聴き取り調査に来られた時に、サービス内容を詳しく説明している他、代理申請の時に扱うマイナンバーの取り扱いについて詳しく教えて頂いた。</p> <p>(外部評価) 市担当職員は毎回、運営推進会議に参加し情報交換している。水害について安全の確認に来てもらったり、マイナンバーの取り扱いや介護保険制度について困ったことなど、気軽に相談することができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 転倒骨折し、術後ホームに戻ってからも尿とりパットを異食する恐れがあり、つなぎ服を着用していたが、毎月つなぎ服解除に向け検討会を開催し実践した結果、現在はつなぎ服を着用していない。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については法人の年間研修計画に沿って勉強会を実施している。職員は外部研修にも参加しているが、研修はすべて勤務扱いとし、研修後は発表する機会を設けレベルアップを図っている。特にことばの拘束について注意し合い意識を高めている。また、利用者が外に出ようとする時は様子を見ながら一緒に歩くなど自由な出入りを見守り、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年間の勉強会のカリキュラムに取り上げ、職員全員が学べる機会を設けているが、馴れあいな関係から、いきすぎた言葉がけや強い口調になっている時があり、ミーティングの時間にお互いの気づきを話し合うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在お一人の利用者の方が、成年後見人制度を活用している。今後更に学ぶ機会を設けなければと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用料の変更や重要事項の変更時は、その度家族会開催時に説明し理解して頂いている。家族会に来られなかった方には、面会時や電話で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 7月に開催している家族だけの家族会で、「事務所から電話がかかってくるとドキッとするので、急用でなければ用件はまとめて連絡してほしい」という意見がでた。事故や受診の報告以外の要件に関しては、毎月送っている家族への手紙に記入する事にし、家族からの要望に取り組んだ。	
			(外部評価) 日常会話の中で聞いたことばや食事をしながら話す内容を大切にして、申し送りノートに記録し職員間で共有している。毎年7月に家族会を開催し家族だけで話し合い、意見や要望を出してもらっている。毎月、家族には利用者の様子を郵送し、面会時はヒヤリハットについて報告を行い意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回あるユニット会で職員の意見をまとめ、リーダー会でユニットリーダーと管理者が法人の代表者に報告している。年2回の人事考課前には、職員一人一人と面接をし、個々の思いを聴き取っている。 (外部評価) 利用者の生活の質を上げるため1日を振り返り、馴れ合いにならないよう話し合い職員のスキルアップを図っている。月1回のユニット会では意見やアイデアを出し合い話し合っている。また年2回、個人面談を行い要望や参加したい研修内容の確認、不安に思っていることなど聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員の疲労やストレスに気を配り、外部の産業カウンセラーを招き、ストレスケアマネジメントを全職員に行っている。又、行事や勉強会の時間外手当の支給や、幼い子供を持つ職員への就業時間への配慮等、働きやすい職場環境作りに力を入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の希望を聞きながら、外部研修に参加できるようにしている。それを元に、月毎にカリキュラムを組み、職員勉強会を開催している。又、代表者は人材育成に力を入れ、外部から講師を招き研修を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が交流のある同業者と交流する機会を作っている。交流のある同業者の出場した介護甲子園の応援に行き、今年は介護甲子園にエントリーする予定である。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談をして生活状況を把握し、本人の意向をお聞きしており、希望される方には来訪していただき、実際に日常の様子を見て頂いている。又、デイサービスやショートステイを経て入居された方もおり、利用者や家族の思いを受け止め、安心していただける様な関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談であらかじめ家族の困っていること・不安な事・要望をお聞きしている。利用開始からは、面会時に話しを聞く時間を設け、家族の求めていることを理解し、どのように対応していくかを話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早急な対応が必要な面談者には、可能な限り柔軟な対応が行えるように関連施設や医療機関などと連携をとっており、必要に応じて調整している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者個々の出来る事、したい事を知り、日々活躍できる場面を作っている。共に暮らす者同士「助かりました」「ありがとう」と労いや感謝の気持ちを伝えあっており、共に支えあえる関係作りに留意している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「絆を大切にしよう」の行動指針の下、家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。手紙・電話・面会時に日頃の状況を報告するとともに、本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族とお墓参りや法事、外食される方、県外の自宅に外泊される方もいる。又、県外にすむ家族と電話で話したり、帰省された家族と居室で食事を共にする等、これまでの関係の継続に努めている。 (外部評価) 利用者の兄弟、いとこ、甥、姪など親族の面会が多く、面会時はゆっくり和やかな雰囲気話ができるように配慮している。子供のいない利用者は馴染みの八百屋さんやお寺の住職さんの面会がある。また三味線の演奏などユニット間での交流で築かれた新しい馴染みの関係を大切に、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性を把握し、席の配置や作業の分担を行っている。世話好きの人にうまく力を発揮してもらい、みんなで楽しく過ごす時間が増えるように職員が調整役となり、孤立した利用者を作らないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、次に生活する場の関係者に情報提供している。又、季節の花を届けてくれる家族もおり、交流行事に招待する等関係の継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向や希望を元に、介護計画を作成し、本人本位の生活支援に努めている。又、利用者の日々の様子や会話の内容をそのまま記録に残し、職員が客観的に利用者への対応を考えられるような記録様式に工夫している。 (外部評価) 日常の会話の中で聞いたことばや日々の様子を積み重ねて読み取り、思いや意向の把握に努めている。他の利用者がしていることを見て自分もしていたことを思い出したり、職員ができそうなことを考え試してみるなど、時間をかけて利用者のできることを探し役割を作るなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時、家族に「○○様らしきノート」に本人のこれまでの暮らしぶりを書き込んでもらい情報収集している他、本人との会話や家族の面会時に聞く等、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「出来る事、したい事を探します」という行動指針の下、本人の出来る事を知り成功例を積み重ねられるよう、介護計画に反映している。又、一人一人の生活習慣や体調の変化は日々の記録に残し、把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、職員個々が本人の課題や支援内容を提案し、担当職員とユニットリーダー・計画作成担当者が中心になり作成している。作成時は事業所理念を反映させている。又、3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向を把握して事業所理念に沿った介護計画を作成している。担当職員はサービス実施状況やモニタリングの気付きをユニット会で報告し、職員全員が共有し実践に取り組んでいる。家族からは事前に話を聞き3ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画を見直している。身体状況に変化がある時はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 主に言動を記録に残し、状況や背景が分かりやすいよう書き方に工夫している。体調面や精神面の変化が著しい時は、センター方式を活用しており個別記録を下に、介護計画の見直しや評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、診察やリハビリの付き添いを行っている。又、入・退院時の送迎や入院中の洗濯等必要な支援は柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 移動スーパーや移動のパン屋が来所し、買物を楽しみに行っている人へ支援している。又、必要な日用品や化粧品をスーパーやドラッグストアに買物に出掛ける方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者全員が年1回は健康診断を受けている。他、週に1回は 協力医療機関の主治医に文章で状況を報告し、月に2回は往診 がある。又、専門医を受診する場合は、家族と日程を調整し て同行してもらっている。他、急変時には、救急車を呼ぶ等 対応している。</p> <p>(外部評価) 法人の母体病院が精神科で主治医となっているため、精神面 は主治医に相談している。入居時に主治医の月2回の往診が あることなどを説明し、かかりつけ医について利用者や家族 に選択してもらっている。受診については、一括主治医に相 談するのが基本であるが、どうしても皮膚科や眼科などの専 門医の受診が必要な時のみ、家族と日程を調整のうえ家族に 同行してもらうなどの支援をしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内に看護職員を2名配置している。介護職員は利用者の些 細な変化を見逃さないよう早期発見に努め、看護職に相談 し、主治医に報告し、適切な医療につなげている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、本人の生活支援の情報を病院に提出している。 又、職員は面会に行き、病院関係者や家族から回復状況を聞 き、情報を交換しながら早期退院に向け連携をとっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日常の会話の中から最期をどこで迎えたいか、早い段階から 本人に聞くようにしている。又、重度化や終末期にむけ、事 業所で出来る事を家族に説明し、出来る限り本人・家族の意 向に沿える様努めている。</p> <p>(外部評価) 平成24年から看取りを開始し、現在までに3名の経験があ る。早い段階から最期をどこで迎えたいか聞いており、利用 者や家族の意向を大切にしている。看取りについて、研修に 参加したり職員間で話し合い、本人の意向に沿った看取りを 行うことができています。</p>	<p>本人の意向に沿った看取りケアを行うことができてい る。今後は、職員全員で経験を活かした看取り介護の 指針の見直しを行うなど、利用者、家族が安心して最 期を迎えることができるよう更なる取組みに期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 市が開催する消防署による応急手当講習会を受講し、受講した職員による施設内研修を行う事で、全職員が周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を実施している。1回は自動通報装置に登録している近隣住民の参加・協力を得ながら実施している。他、設備点検や消防署の協力を得て、水消火器による消火訓練、訓練後の意見交換会を行っている。非常用食料・備品は3日分を準備している。 (外部評価) 年に2回、内1回は消防署の立会い、内1回は四国通建が立会い避難訓練を実施している。事業所は地域の避難場所となっており、地域の防災マップにも登録されている。備蓄品も準備し非常事態に備えている。緊急連絡網に地域住民も入り、非常時緊急連絡の実践に参加してもらい、訓練後は意見交換し地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は常に利用者の立場に立って、まず本人の気持ちを大切に考えている。特に排泄の介助は本人を傷つけないよう、さりげない声掛けやケアを心掛けている。 (外部評価) 排泄については、失敗したことを心配させないようことばに出して言わないように気をつけている。声かけは小さな声で耳元で言うなど気をつけている。排便量はテニスボールやピンポン玉に例えるなど、尊厳を損なわない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 10時のティータイムでは、飲みたい物を選んでいただいたり、日常の家事支援やレクリエーションの参加等も無理には進めず、利用者の希望を伺っている。意思表示が困難な方には表情から思いを汲み取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れは決めているが、一人ひとりのその日の体調を配慮しながら、又は、その人の生活習慣に合わせたペースで暮らせるよう、出来るだけ個別性のある支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝洗面の後、鏡を見ながら髪をとかし化粧水を塗る等、今までの生活習慣でしていた事を継続出来る様にしている。毎日着る洋服・出掛ける時の外出着も本人が選び、自己決定出来ない方は職員が選んでいる。又、食べこぼしが多い方には、食事用エプロンは使わず、専用タオルを使用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者には、野菜を切って頂く他、盛り付けや後片付け・米とき等を一緒にして頂いている。職員は日常の会話の中から食べたい物を聞き、献立に入れている。又、利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、会話しながら楽しい雰囲気の中で食事が出来るように努めている。 (外部評価) 献立は、日々のレクリエーションの中で一番食べたい物を聞いて利用者の好みを取り入れている。朝昼食、夕食の汁とご飯を手作りし、夕食の副食は関連施設で作り盛り付けやあと片付けを利用者と一緒に行っている。職員も一緒に会話をしながら同じ物を食べ和やかな雰囲気の中で食事ができている。誕生日は利用者がメニューを決め、ケーキを手作りしお祝いしている。また、月に1回の移動スーパーの来店を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) むせたり飲み込みが悪い人にはとろみをつけたり、ストローを使って少しずつ飲んでいただいたり、手の力が弱くなった方にはプラスチックの器を使っている。又、水分や食事量が充分摂れない方には、本人の嗜好品や食べやすい形態のものを提供する等工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方には声掛け・見守りをし、出来ない方には仕上げみがきやデンタルリンスでうがいをして頂いている。口腔内に異常がある時は、歯科往診を受ける事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自尊心に配慮し、尿意が表せない利用者にも、時間を見計らって誘導したり、行動を察知し失敗せずトイレで排泄が出来るように努めている。又、個々にあわせて使用する紙パンツやパットを検討している。	
			(外部評価) 日中はできる限り布パンツを使用し、シルバーカーの向きを使いやすいように変えたり、尿取りパットを付けるなど利用者のできないことのみ支援している。尿意のない利用者は排泄チェック表を見て声かけし、また動作を見て声をかけトイレでの排泄を支援している。夜間のみ紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、利用者一人ひとりに合わせて排泄支援を行っている。夕方に帰宅願望の強い利用者にトイレ誘導することで改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時は冷水や牛乳を提供し、自然な排便に繋がるよう工夫はしているが、便秘薬を服用されている方が多い為、服薬は最低限に出来るよう、主治医と相談しながら調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) リフト付きシャワーキャリーを導入し、利用者・職員ともに身体への負担が軽減した。入浴を洗る方には、一度外気浴に誘い気分転換をして入浴したり、入浴が身体への負担になる方には、入浴の前後に休息を取り入れる等の工夫をしている。	
			(外部評価) 浴室は洗い場が広く、三方から介助できる浴槽にリフト付きシャワーキャリーを設置している。1日置きの入浴を基本とし、疾病などで負担となる利用者は3日に1回の入浴としている。シャンプーとリンスは利用者の好みの物を使用し、柚子湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。入浴の苦手な利用者は声かけに工夫したり娘さんに同席してもらったり、自宅で入浴するなど無理強いすることなく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 1人ひとりの生活リズムに合わせ、日中の活動に配慮している。その時々体調や表情や本人の希望を考慮し、休息をとっている。又、穏やかな気持ちで安心して眠れる様に夕方からの居場所や過ごし方にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて、日常的に確認しており、処方変更になったり、状態変化が見られる等医療的な記録は赤色で記入している。又、日々の服薬を確実なものにする為、服薬方法を個別に決めており、職員はそれを周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、1人ひとりの得意な力を発揮できる場面を作り、助けられた事への感謝の気持ちを言葉で伝える様になっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望により、ドライブや買物に出掛ける事もある。家族の協力の下、年1回日帰り旅行と称し国際ホテルに出掛け、家族と旅行気分を味わえる企画をしている他、利用者からの希望で、回転寿司にお寿司を食べに行く事を企画した。 (外部評価) 事業所の周辺を散歩したり中庭を歩くなど日常的に気分転換を図っている。初詣、観梅、さくら見物など季節毎の外出や福祉フェア、フリーマーケットに出かけている。回転寿司を食べに行ったりマクドナルドに行きドライブスルーで購入するなど外出を楽しんでいる。また年に1回は国際ホテルの2階を予約し、家族と食事をするなど旅行気分を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお金を持っている方もいるが、概ね事業所で管理している。買い物に行くときは自分でお金が払える様工夫している。他、管理が出来ない方にもお金はあるという安心感を感じられる様声掛けしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親戚や知人に年賀状を出す他、遠方の家族に電話をしたりかかってきたりもする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間には四季折々の花を飾り、壁には手縫いのタペストリーが飾ってある。ひな人形・五月人形・七夕を飾り、季節のしきたりを大切にしている。又、中庭には洗濯物を干したり、草花や野菜を育てたり散歩や日光浴をする方もおり、両ユニットの利用者の憩いの場になっている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットは左右に分かれており中心に広い中庭がある。中庭で花や苺、トマト、ゴーヤなどの野菜を育てたり散歩をして気分転換している。また中庭を通りユニット間を自由に行き来でき利用者同士の交流の場となっている。リビングは利用者と一緒にフェルトで手作りしたタペストリーを季節毎に変え、現在はあじさいの花を飾っている。リビング中央にはテーブルを配置し、座席についても気を配りリラックスできる場所作りに配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 職員は一人ひとりの関係性を把握しており、各々に心地よくすごして頂ける様ソファや椅子の配置に配慮している。又、中庭や玄関先・駐車場等、戸外にもベンチや椅子を設置し、1人で過ごしたり気の合う利用者同士がくつろげるスペースがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分で創った手芸品や、位牌のほか、レコードプレーヤーを持って来られ、ご自分の好きなレコードをかけ歌を聴いている方もいる。又、家族との写真や家族からのプレゼントの品を飾る等、それぞれの居心地の良い環境を工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室は生活習慣や身体状況に合わせてベッドの方向や位置を決めている。また利用者に合わせて布団を敷いている。使い慣れた寝具、鏡、化粧品を持ち込み、レコードプレーヤーでレコードを聞き楽しんでいる利用者もいる。大切な位牌にお茶とご飯を供え、家族の写真やプレゼントを飾るなど、利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 1人ひとりの身体機能や状況に合わせて、安全で自立した生活が送れるよう、気づきをヒヤリハットにあげ検討し、安全な環境整備に努めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200780
法人名	社会福祉法人 寿山会
事業所名	グループホーム パラディ
所在地	今治市波方町樋口甲120番地1
自己評価作成日	平成28年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念を大切に、利用者本位のサービスを提供できるよう取り組んでいます。</p> <p>○医療と連携をとり、安全で安心して生活できるようにしています。</p> <p>○地域の中で、地域密着型サービス事業所として地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。</p> <p>○ご利用者・地域・医療・職員の絆を大切にして、ご利用者の生活の質の向上に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな山間に位置し開設して12年が経過した事業所は、母体病院との連携が充実しており安心して生活することができている。利用者との関わりを深く持ち、できることを根気強く引出すことで、利用者の元気のもとになっている。職員は長期勤務者が多く、始めようと決めたことは一丸となって臨み、新しいことに積極的にチャレンジして達成している。また感謝の気持ちを常に持ち、職員同士がお互いに「ありがとう」の意志表示をするサンクスカードにより感謝の意を表すことにより、職員同士の関係性が深まり、楽しく仕事ができやりに通じている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 虹ユニット

記入者(管理者)

氏名 笠原 好美

評価完了日

平成28年 6月 7日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念はもとより、事業所の理念「ひとり一人がその人らしく尊厳のある暮らし」を掲げ、職員が理念を共有できるよう4つの行動指針を作り実践している。又、社会福祉法人の職員として出来る社会貢献にも取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念と当事業所の理念に沿って行動指針を作成し、目立つ所に掲示している。理念は最終的な目標と位置づけ継続し、具体的な行動指針について職員間で話し合い、項目を追加するなど見直しを行い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方とは、野菜を頂いたり、その野菜で作ったお漬物をお返しする等の日常的な交流ができています。又、そうめん流しや納涼祭、芋炊き会には近隣の方をお招きしている。6月に開催するあじさい祭りには、地域のサロンや地域の方達と共に作った「多々良マップ」をもとに案内状を作り招待している。</p> <p>(外部評価) 地域の独居高齢者が野菜を作り差し入れてくれたり、職員はその野菜で漬物を作りお返しする際安否確認を行うなど交流がある。事業所で開催するあじさい祭りやそうめん流しに地域住民の参加を呼びかけ、地方祭は獅子舞が入り利用者と一緒に見物している。産業文化祭には利用者の手作り作品を展示してもらいバザーに参加している。また地域清掃に参加するなど地域住民と積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の中学校の体験学習の受け入れを行っている他、6月のあじさい祭りには、在宅支援センター職員と共に、認知症家族の会の方々が来られ相談を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常の利用者の様子を理解して頂きたく、開催を14時からにしてみた。思っていたよりも利用者に出来る事が多いことが少し理解して頂けたが、仕事や農作業の都合で毎日が難しく、1年に1回のみ14時開催になった。メディアで高齢者の虐待等が報じられた時は、「虐待等にならない為には人材育成が重要」と意見を頂いた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、老人会、自治会長、寺の総代、市健康福祉課職員、家族の参加を得て開催している。利用状況、行事報告、事故報告などを行い、それらに基づいて話し合っているが、参加者が固定化され積極的な意見交換までには至っていない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当職員が運営推進会議に出席している。又、認定更新の聴き取り調査に来られた時に、サービス内容を詳しく説明している他、代理申請の時に扱うマイナンバーの取り扱いについて詳しく教えて頂いた。</p> <p>(外部評価) 市担当職員は毎回、運営推進会議に参加し情報交換している。水害について安全の確認に来てもらったり、マイナンバーの取り扱いや介護保険制度について困ったことなど、気軽に相談することができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 転倒骨折し、術後ホームに戻ってから尿とりパットを異食する恐れがあり、つなぎ服を着用していたが、毎月つなぎ服解除に向け検討会を開催し実践した結果、現在はつなぎ服を着用していない。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については法人の年間研修計画に沿って勉強会を実施している。職員は外部研修にも参加しているが、研修はすべて勤務扱いとし、研修後は発表する機会を設けレベルアップを図っている。特にことばの拘束について注意し合い意識を高めている。また、利用者が外に出ようとする時は様子を見ながら一緒に歩くなど自由な出入りを見守り、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年間の勉強会のカリキュラムに取り上げ、職員全員が学べる機会を設けているが、馴れあいな関係から、いきすぎた言葉がけや強い口調になっている時があり、ミーティングの時間にお互いの気づきを話し合うようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在お一人の利用者の方が、成年後見人制度を活用している。今後更に学ぶ機会を設けなければと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用料の変更や重要事項の変更時は、その度家族会開催時に説明し理解して頂いている。家族会に来られなかった方には、面会時や電話で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 7月に開催している家族だけの家族会で、「事務所から電話がかかってくるとドキッとするので、急用でなければ用件はまとめて連絡してほしい」という意見がでた。事故や受診の報告以外の要件に関しては、毎月送っている家族への手紙に記入する事にし、家族からの要望に取り組んだ。 (外部評価) 日常会話の中で聞いたことばや食事をしながら話す内容を大切にして、申し送りノートに記録し職員間で共有している。毎年7月に家族会を開催し家族だけで話し合い、意見や要望を出してもらっている。毎月、家族には利用者の様子を郵送し、面会時はヒヤリハットについて報告を行い意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回あるユニット会で職員の意見をまとめ、リーダー会でユニットリーダーと管理者が法人の代表者に報告している。年2回の人事考課前には、職員一人一人と面接をし、個々の思いを聴き取っている。 (外部評価) 利用者の生活の質を上げるため1日を振り返り、馴れ合いにならないよう話し合い職員のスキルアップを図っている。月1回のユニット会では意見やアイデアを出し合い話し合っている。また年2回、個人面談を行い要望や参加したい研修内容の確認、不安に思っていることなど聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員の疲労やストレスに気を配り、外部の産業カウンセラーを招き、ストレスケアマネジメントを全職員に行っている。又、行事や勉強会の時間外手当の支給や、幼い子供を持つ職員への就業時間への配慮等、働きやすい職場環境作りに力を入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の希望を聞きながら、外部研修に参加できるようにしている。それを元に、月毎にカリキュラムを組み、職員勉強会を開催している。又、代表者は人材育成に力を入れ、外部から講師を招き研修を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が交流のある同業者と交流する機会を作っている。交流のある同業者の出場した介護甲子園の応援に行き、今年は介護甲子園にエントリーする予定である。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談をして生活状況を把握し、本人の意向をお聞きしており、希望される方には来訪していただき、実際に日常の様子を見て頂いている。又、デイサービスやショートステイを経て入居された方もおり、利用者や家族の思いを受け止め、安心していただける様な関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談であらかじめ家族の困っていること・不安な事・要望をお聞きしている。利用開始からは、面会時に話しを聞く時間を設け、家族の求めていることを理解し、どのように対応していくかを話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早急な対応が必要な面談者には、可能な限り柔軟な対応が行えるように関連施設や医療機関などと連携をとっており、必要に応じて調整している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者個々の出来る事、したい事を知り、日々活躍できる場面を作っている。共に暮らす者同士「助かりました」「ありがとう」と労いや感謝の気持ちを伝えあっており、共に支えあえる関係作りに留意している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「絆を大切にしよう」の行動指針の下、家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。手紙・電話・面会時に日頃の状態を報告するとともに、本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族とお墓参りや法事、外食される方、県外の自宅に外泊される方もいる。又、県外にすむ家族と電話で話したり、帰省された家族と居室で食事を共にする等、これまでの関係の継続に努めている。 (外部評価) 利用者の兄弟、いとこ、甥、姪など親族の面会が多く、面会時はゆっくり和やかな雰囲気話ができるように配慮している。子供のいない利用者は馴染みの八百屋さんやお寺の住職さんの面会がある。また三味線の演奏などユニット間での交流で築かれた新しい馴染みの関係を大切に、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性を把握し、席の配置や作業の分担を行っている。世話好きの人にうまく力を発揮してもらい、みんなで楽しく過ごす時間が増えるように職員が調整役となり、孤立した利用者を作らないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、次に生活する場の関係者に情報提供している。又、季節の花を届けてくれる家族もおり、交流行事に招待する等関係の継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向や希望を元に、介護計画を作成し、本人本位の生活支援に努めている。又、利用者の日々の様子や会話の内容をそのまま記録に残し、職員が客観的に利用者への対応を考えられるような記録様式に工夫している。 (外部評価) 日常の会話の中で聞いたことばや日々の様子を積み重ねて読み取り、思いや意向の把握に努めている。他の利用者がしていることを見て自分もしていたことを思い出したり、職員ができそうなことを考え試してみるなど、時間をかけて利用者のできることを探し役割を作るなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時、家族に「○○様らしきノート」に本人のこれまでの暮らしぶりを書き込んでもらい情報収集している他、本人との会話や家族の面会時に聞く等、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「出来る事、したい事を探します」という行動指針の下、本人の出来る事を知り成功例を積み重ねられるよう、介護計画に反映している。又、一人一人の生活習慣や体調の変化は日々の記録に残し、把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、職員個々が本人の課題や支援内容を提案し、担当職員とユニットリーダー・計画作成担当者が中心になり作成している。作成時は事業所理念を反映させている。又、3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや意向を把握して事業所理念に沿った介護計画を作成している。担当職員はサービス実施状況やモニタリングの気づきをユニット会で報告し、職員全員が共有し実践に取り組んでいる。家族からは事前に話を聞き3ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画を見直している。身体状況に変化がある時はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 主に言動を記録に残し、状況や背景が分かりやすいよう書き方に工夫している。体調面や精神面の変化が著しい時は、センター方式を活用しており個別記録を下に、介護計画の見直しや評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、診察やリハビリの付き添いを行っている。又、入・退院時の送迎や入院中の洗濯等必要な支援は柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 移動スーパーや移動のパン屋が来所し、買物を楽しみにしている人へ支援している。又、必要な日用品や化粧品をスーパーやドラッグストアに買物に出掛ける方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者全員が年1回は健康診断を受けている。他、週に1回は 協力医療機関の主治医に文章で状況を報告し、月に2回は往診 がある。又、専門医を受診する場合は、家族と日程を調整し て同行してもらっている。他、急変時には、救急車を呼ぶ等 対応している。 (外部評価) 法人の母体病院が精神科で主治医となっているため、精神面 は主治医に相談している。入居時に主治医の月2回の往診が あることなどを説明し、かかりつけ医について利用者や家族 に選択してもらっている。受診については、一括主治医に相 談するのが基本であるが、どうしても皮膚科や眼科などの専 門医の受診が必要な時のみ、家族と日程を調整のうえ家族に 同行してもらうなどの支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内に看護職員を2名配置している。介護職員は利用者の些 細な変化を見逃さないよう早期発見に努め、看護職に相談 し、主治医に報告し、適切な医療につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の生活支援の情報を病院に提出している。 又、職員は面会に行き、病院関係者や家族から回復状況を聞 き、情報を交換しながら早期退院に向け連携をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日常の会話の中から最期をどこで迎えたいか、早い段階から 本人に聞くようにしている。又、重度化や終末期にむけ、事 業所で出来る事を家族に説明し、出来る限り本人・家族の意 向に沿える様努めている。 (外部評価) 平成24年から看取りを開始し、現在までに3名の経験があ る。早い段階から最期をどこで迎えたいか聞いており、利用 者や家族の意向を大切にしている。看取りについて、研修に 参加したり職員間で話し合い、本人の意向に沿った看取りを 行うことができている。	本人の意向に沿った看取りケアを行うことができている。 今後は、職員全員で経験を活かした看取り介護の 指針の見直しを行うなど、利用者、家族が安心して最 期を迎えることができるよう更なる取組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 市が開催する消防署による応急手当講習会を受講し、受講した職員による施設内研修を行う事で、全職員が周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を実施している。1回は自動通報装置に登録している近隣住民の参加・協力を得ながら実施している。他、設備点検や消防署の協力を得て、水消火器による消火訓練、訓練後の意見交換会を行っている。非常用食料・備品は3日分を準備している。 (外部評価) 年に2回、内1回は消防署の立会い、内1回は四国通建が立会い避難訓練を実施している。事業所は地域の避難場所となっており、地域の防災マップにも登録されている。備蓄品も準備し非常事態に備えている。緊急連絡網に地域住民も入り、非常時緊急連絡の実践に参加してもらい、訓練後は意見交換し地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は常に利用者の立場に立って、まず本人の気持ちを大切に考えている。特に排泄の介助は本人を傷つけないよう、さりげない声掛けやケアを心掛けている。 (外部評価) 排泄については、失敗したことを心配させないようことばに出して言わないように気をつけている。声かけは小さな声で耳元で言うなど気をつけている。排便量はテニスボールやピンポン玉に例えるなど、尊厳を損なわない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 10時のティータイムでは、飲みたい物を選んでいただいたり、日常の家事支援やレクリエーションの参加等も無理には進めず、利用者の希望を伺っている。意思表示が困難な方には表情から思いを汲み取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れは決めているが、一人ひとりのその日の体調を配慮しながら、又は、その人の生活習慣に合わせたペースで暮らせるよう、出来るだけ個別性のある支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝洗面の後、鏡を見ながら髪をとかし化粧水を塗る等、今までの生活習慣でしていた事を継続出来る様にしている。毎日着る洋服・出掛ける時の外出着も本人が選び、自己決定出来るく方は職員が選んでいる。又、食べこぼしが多い方には、食事用エプロンは使わず、専用タオルを使用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者には、野菜を切って頂く他、盛り付けや後片付け・米とき等を一緒にして頂いている。職員は日常の会話の中から食べたい物を聞き、献立に入れている。又、利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、会話しながら楽しい雰囲気の中で食事が出来るように努めている。 (外部評価) 献立は、日々のレクリエーションの中で一番食べたい物を聞いて利用者の好みを取り入れている。朝昼食、夕食の汁とご飯を手作りし、夕食の副食は関連施設で作り盛り付けやあと片付けを利用者と一緒に行っている。職員も一緒に会話をしながら同じ物を食べ和やかな雰囲気の中で食事ができている。誕生日は利用者がメニューを決め、ケーキを手作りしお祝いしている。また、月に1回の移動スーパーの来店を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) むせたり飲み込みが悪い人にはとろみをつけたり、ストローを使って少しずつ飲んでいただいたり、手の力が弱くなった方にはプラスチックの器を使っている。又、水分や食事量が充分摂れない方には、本人の嗜好品や食べやすい形態のものを提供する等工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方には声掛け・見守りをし、出来ない方には仕上げみがきやデンタルリンスでうがいをして頂いている。口腔内に異常がある時は、歯科往診を受ける事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自尊心に配慮し、尿意が表せない利用者にも、時間を見計らって誘導したり、行動を察知し失敗せずトイレで排泄が出来るように努めている。又、個々にあわせて使用する紙パンツやパットを検討している。	
			(外部評価) 日中はできる限り布パンツを使用し、シルバーカーの向きを使いやすいように変えたり、尿取りパットを付けるなど利用者のできないことのみ支援している。尿意のない利用者は排泄チェック表を見て声かけし、また動作を見て声をかけトイレでの排泄を支援している。夜間のみ紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、利用者一人ひとりに合わせて排泄支援を行っている。夕方に帰宅願望の強い利用者にはトイレ誘導することで改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時は冷水や牛乳を提供し、自然な排便に繋がるよう工夫はしているが、便秘薬を服用されている方が多い為、服薬は最低限に出来るよう、主治医と相談しながら調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) リフト付きシャワーキャリーを導入し、利用者・職員ともに身体への負担が軽減した。入浴を渋る方には、一度外気浴に誘い気分転換をして入浴したり、入浴が身体への負担になる方には、入浴の前後に休息を取り入れる等の工夫をしている。	
			(外部評価) 浴室は洗い場が広く、三方から介助できる浴槽にリフト付きシャワーキャリーを設置している。1日置きの入浴を基本とし、疾病などで負担となる利用者は3日に1回の入浴としている。シャンプーとリンスは利用者の好みの物を使用し、柚子湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。入浴の苦手な利用者は声かけに工夫したり娘さんに同席してもらったり、自宅で入浴するなど無理強いすることなく入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 1人ひとりの生活リズムに合わせ、日中の活動に配慮している。その時々体調や表情や本人の希望を考慮し、休息をとっている。又、穏やかな気持ちで安心して眠れる様に夕方からの居場所や過ごし方にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて、日常的に確認しており、処方の変更になったり、状態変化が見られる等医療的な記録は赤色で記入している。又、日々の服薬を確実なものにする為、服薬方法を個別に決めており、職員はそれを周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、1人ひとりの得意な力を発揮できる場面を作り、助けられた事への感謝の気持ちを言葉で伝える様になっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望により、ドライブや買物に出掛ける事もある。家族の協力の下、年1回日帰り旅行と称し国際ホテルに出掛け、家族と旅行気分を味わえる企画をしている他、利用者からの希望で、回転寿司にお寿司を食べに行く事を企画した。 (外部評価) 事業所の周辺を散歩したり中庭を歩くなど日常的に気分転換を図っている。初詣、観梅、さくら見物など季節毎の外出や福祉フェア、フリーマーケットに出かけている。回転寿司を食べに行ったりマクドナルドに行きドライブスルーで購入するなど外出を楽しんでいる。また年に1回は国際ホテルの2階を予約し、家族と食事をするなど旅行気分を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお金を持っている方もいるが、概ね事業所で管理している。買い物に行くときは自分でお金が払える様工夫している。他、管理が出来ない方にもお金はあるという安心感を感じられる様声掛けしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 親戚や知人に年賀状を出す他、遠方の家族に電話をしたりかかってきたりもする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間には四季折々の花を飾り、壁には手縫いのタペストリーが飾ってある。ひな人形・五月人形・七夕を飾り、季節のしきたりを大切にしている。又、中庭には洗濯物を干したり、草花や野菜を育てたり散歩や日光浴をする方もおり、両ユニットの利用者の憩いの場になっている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットは左右に分かれており中心に広い中庭がある。中庭で花や苺、トマト、ゴーヤなどの野菜を育てたり散歩をして気分転換している。また中庭を通りユニット間を自由に行き来でき利用者同士の交流の場となっている。リビングは利用者と一緒にフェルトで手作りしたタペストリーを季節毎に変え、現在はあじさいの花を飾っている。リビング中央にはテーブルを配置し、座席についても気を配りリラックスできる場所作りに配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 職員は一人ひとりの関係性を把握しており、各々に心地よくすごして頂ける様ソファや椅子の配置に配慮している。又、中庭や玄関先・駐車場等、戸外にもベンチや椅子を設置し、1人で過ごしたり気の合う利用者同士がくつろげるスペースがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分で創った手芸品や、位牌のほか、レコードプレーヤーを持って来られ、ご自分の好きなレコードをかけ歌を聴いている方もいる。又、家族との写真や家族からのプレゼントの品を飾る等、それぞれの居心地の良い環境を工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室は生活習慣や身体状況に合わせてベッドの方向や位置を決めている。また利用者に合わせて布団を敷いている。使い慣れた寝具、鏡、化粧品を持ち込み、レコードプレイヤーでレコードを聞き楽しんでいる利用者もいる。大切な位牌にお茶とご飯を供え、家族の写真やプレゼントを飾るなど、利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 1人ひとりの身体機能や状況に合わせて、安全で自立した生活が送れるよう、気づきをヒヤリハットにあげ検討し、安全な環境整備に努めている。</p>	